

2023（令和5）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492601735	事業の開始年月日	令和2年9月1日
		指定年月日	令和2年8月28日
法人名	一般社団法人 東林間 輝		
事業所名	グループホーム 東林間 輝		
所在地	(〒252-0311) 神奈川県相模原市南区東林間5-6-21		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和5年10月5日	評価結果 市町村受理日	令和6年1月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念 ①あなたの笑顔が見たいから ②真心と安心のある介護をめざして ③地域に根ざす家族愛 1. 理念に沿ったサービスを提供するようにしている 2. 入居者様・ご家族様の意向に寄り添い出来る限り最期まで輝で過ごしていただけるような関わりを心がけている 3. 入居前の習慣を失わずその人らしさが活かされる生活を目指している 4. 持っている力を最大限に引き出す関わり方をしている 5. 介護と医療の連携ができています 6. ご家族様がいつでも面会ができる雰囲気作りをしている 7. 旬の食材を使った献立、手作りで家庭の味を提供している 8. 職員が元気で明るく働ける環境づくり
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年11月8日	評価機関 評価決定日	令和6年1月18日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急江ノ島線「東林間」駅西口から徒歩約3分に位置し、生活に便利な商店街や大型スーパーが近くにあります。鉄骨造り3階建ての2、3階部分にあり、1階には同一法人運営の小規模多機能型居宅介護「東林間 輝」を併設しています。 <優れている点> 事業所開設以来、地元の東林間自治会、東林間商店復興会に加入し、地域行事への参加や事業所行事を通じて交流を深め、良好な関係を築いています。毎月、商店街のゴミ拾いに利用者と参加したり、地元阿波踊りのお祭り「東林間サマーわぁ！ニバル」では利用者のために見物席を用意して貰ったり、阿波踊り連盟の人が事業所屋上で踊りを披露してくれています。地域に事業所の屋上を開放したり、非常災害時には事業所内の井戸水を防災用水として使用できることを伝えており、協力関係を築いています。利用者の退去後も家族から、本人のみならず知人や親せきのことで相談・報告があり、退去先の介護施設や病院などに様子を見に行ったり、葬儀に参列したりし、サービス終了後もこれまでの関係性を大切に相談や支援を行っています。 <工夫点> 食事は、献立から調理まで事業所内で手作りし、季節感のある食事を提供しています。食欲を高めるために残食の多い献立については見直し、食事への関心を引き起こすための献立を工夫をしています。毎週土曜日を利用者の好きな寿司の日とし、昼食には新鮮な魚介を使用した食事を提供し利用者に喜んでもらえるように努めています。
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム 東林間 輝
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	輝の理念である 1. あなたの笑顔が見たいから 2. 真心と安心のある介護をめざして 3. 地域に根ざす家族愛 を各ユニットに大きく掲示しています職員は業務で迷いがあつた時はいつでも理念に自分の行動に照らし合わせながら従事している。	事業所開設時に全職員で作成した理念と方針を職員は日常的に確認し、フロア会議でも確認、振り返りを行い実践に努めています。理念の一つである「あなたの笑顔が見たいから」では、その人の好きな歌や昔の職業・生まれ育った場所などに関連した昔話などで「回想法」を活用し、利用者の笑顔を引き出しています。	事業所開設以来10年が経過し、事業所内外の環境も変化してきているので、地域密着型サービスの意義や役割を考慮し、「グループホーム」としての独自の理念を作成されることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	東林間自治会、東林間商店復興会に加入している。運営推進会議のメンバーとして自治体などの代表が参加して頂いている商店街のゴミ拾い、先日は地元の有名な阿波踊り連盟の方に協力をもらい屋上で踊りを披露してくださった	事業所開設時から地元自治会、商店会に加入し、地域との良好な関係を築いています。地域行事への参加や事業所の行事を通じて交流を深めています。また、地域に事業所の屋上を開放したり、非常災害時には事業所内の井戸水を防災用水として使用できることを伝えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍になる前は毎年地域包括主催のグループホーム見学を兼ねて認知症の方に対する支援などを説明していたまた今後も機会があれば再開したい		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	対面での運営推進会議を実施しご利用者様の状況報告、コロナ含む感染予防など様々な取り組みについて報告した ご入居者様でコロナ感染がなかったため今後もそのように取り組みたいと思う	運営推進会議は、コロナ禍の書面開催に替え、本年度第1回の5月から対面開催を再開し2ヶ月ごと定期的に行っています。事業所の活動状況などを報告し意見交換を行っています。外部評価受審結果についても報告しています。議事録は、利用者家族へも送付し共有しています。	議事録を職員にも開示、説明し情報の共有化を図られることが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護保険制度に係る内容は相模原市福祉基盤課や介護保険課を窓口にして相談や申請を行っている また生活保護受給者枠を設けているので福祉事務所(南生活支援課)の担当者とも連絡・相談など連携を図っている	相模原市の担当部門とは介護認定更新手続きや困難事例の相談などを通じて連携しています。また、生活保護受給者の利用者について福祉事務所、ケースワーカーと協力関係を築いています。東林第1地域包括支援センター交流室で開催している百歳体操にも参加し連携しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会4回、一般研修を年に2回定期的に行って理解を深めている 身体拘束をしないケアを努めている 一般的な声掛けとの違いがわかりづらいこともあり、現在はスピーチロックに対する問題意識が高まっているように感じている 長時間の点滴が必要な方が動き回り針を抜かないように見守り、付き添いをご家族様にご協力いただいたこともあった	身体拘束委員会、身体拘束研修を定期的に行い実施し、職員の理解を深めています。理解度を検証するため「自己点検シート」を活用し、確認・振り返りを行っています。職員の利用者に対する「待つ」の発言が見受けられたことから、特に「スピーチロック」を取り上げ研修を行ったところ、改善効果が現れています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会4回、一般研修を年に2回定期的に行って理解を深めている。報連相を大切にし虐待を疑われないようなことのないようにしている。虐待を発見したら報告義務があること、通報窓口の周知も研修の中でも行っている。自己点検シートを活用し意識向上も図っている	虐待防止委員会、虐待防止研修を定期的に行い「自己点検シート」を活用し意識向上を図っています。ミーティングで不適切ケアについて協議し、報連相を徹底し虐待防止に努めています。管理者は職員の日常を把握し、ストレス解消・軽減に業務の見直しも行っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用したいご家族様の依頼があったので主治医を含め関係者と話し合った 申請書を提出するにあたり必要な書類に記入するなど支援した		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族様に対して納得していただけるよう十分な説明を行い契約をしている改正時には家族会で説明をし欠席者には文書で知らせていた 今回、契約書の内容など再点検をして作り直すことになっている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様あての手紙・メール・電話でのやり取りをして意見交換の場を設けている コロナ禍になる前は敬老会に併せて家族会も開催し意見や要望を聞いていた 今年も再開の予定で話を進めていたが残念ながらできなかった そのため意見の反映ができるよう担当者会議を開催している	家族の面会時に利用者の様子を伝えると共に意見や要望を聞く機会を設けています。また、毎月家族に「介護報告書」を送付し、意見や要望がある場合は事業所への連絡をお願いし、電話番号などの連絡先を明記しています。意見や要望は運営に反映させています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議・フロア会議・個人面談などの場において介護業務や人間関係など職員の意見・提案を聞いて現場に反映をしている。またリーダー会議やフロア会議なども含め話しやすい雰囲気を作るようにしている	毎月実施のリーダー会議に法人の代表者や総務部長が参加し職員の意見や要望を聞いています。管理者は年度初めに職員と個人面談を行い意見や要望を聞く機会を持つと共に、日頃からコミュニケーションを取り、運営に反映しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1回の個人面談を実施 状況に合わせて随時面談を行い環境整備に取り組んでいる。また希望休・有給休暇に関しては全職員が取得できる環境となるように心掛けている。給与においても頑張りや評価しパートさんを含め全員に賞与を渡している。また年に1回お誕生日月にも祝い金を設け	毎年、評価基準書に基づき全職員の人事考課を実施し、個人面談を行い働く意欲の向上に努めています。代表者は施設長を兼ね、職員と話す機会を持ち、リーダー会議にも出席し職場環境に留意しています。職員の資格取得に向けた支援を行い職員のやる気を引き出しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	常勤・非常勤職員にも外部研修を受講できるようにオンライン(ZOOM)などでも積極的に参加し人材育成に努めている。参加した職員には記録や会議の場で報告を行い知識の共有を図っている。また、初任者研修など資格取得がしやすいようキャリアアップ制度も利用し取り組んでいる	研修計画に基づき研修を実施しています。外部研修受講時は費用補助があり、受講者は事業所で2次研修を行っています。相模原市のキャリアアップ研修に積極的に参加し人材育成に取り組んでいます。新入職員はマニュアルに基づきリーダーによる3ヶ月間のOJT研修で育成しています。	現在、事業所では職員の介護技術の習得と更なるレベルアップを課題としています。法定研修と共に介護技術に特化した研修の実施も期待されます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	相模原市のグループホーム連絡会に参加し情報交換と質の向上に努めている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	計画作成者と介護職員が事前に訪問した際、本人の意向を確認し、要望に沿った介護に努めている。経過とともに改善すべきところは改善し希望に沿ったサービスに努め本人が安心して過ごせるような生活環境を整えるようにしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談の際にご家族様の意向を確認し要望に沿った会合に努めている またできることできないこともお伝えし誤解が生じないように説明をしている そういう中で理解し信頼が深まっていると感じている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成者と介護職員リーダーが事前訪問で収集した情報を生かし介護サービスに反映させるだけでなくインフォーマルサービス等の確認も行っている 経過とともに改善すべき点は改善している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご入居者様の過ごしてきた環境をできる限り維持できるサービスに努めている ご協力いただける部分にはお願いをし、男性・女性に関係なく持っている力を発揮していただくように関わっている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様が面会に来られた際に普段の楽しいエピソードなどをお伝えしている。またご家族様との会話でもご本人様の気持ちを代弁するなどご家族様が安心して帰られるようにしている。ご本人が好きなお物も持参していただき個別で食べている。病院の受診などは可能な範囲でご協力いただくように相談している。ご家族様との過ごす時間を大切にしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会については感染症対策をきちんと行った上で実施している 面会時には体温チェックとアルコールでの消毒をしていただき、面会時間は短時間をお願いし外出は本人や家族の意向を尊重し人混みを避けて外出等もしていただいている	面会は本年8月から居室での対応を再開しています。昔の仕事仲間やテニス仲間などの訪問があり、帰りには再訪をお願いし関係継続に繋げています。馴染みの美容院や利用者の孫の結婚式への同行支援をしています。本人が入居前に楽しんでいた琴や塗り絵、麻雀などの継続支援も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	要支援1から要介護5の入居様が各々孤立しないように席の工夫などを行っている また、見下したものの言い方をされないように職員が介入して入居者様同士の関わり合いを増やす機会を作っている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後もご家族様から本人のみならず知人や親戚の事で相談・報告のご連絡がある。 親戚の方を介護保険施設にご入居に繋げ感謝された また葬儀にも参列させていただいている		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関わりの中からその方の思いや希望をくみ取るようにしている 職員・ご家族様との情報を共有し職員本位のものとならないように気をつけている	職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心を持ち、言葉で思いや要望を伝えられない利用者にも日々の行動や表情から把握するよう努めています。家族の意見や利用者の様子を連絡ノートを活用し、どのように暮らすことが最良なのか情報を職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居時にはご家族様・担当ケアマネジャーからも情報をいただいている 暮らしの希望、意向を把握し、職員は情報の共有をして生活リズムが変わらないように努めている 仏壇のお水替えなど、自宅で行っていた習慣も一緒に行ってる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェック（血圧・体温・SP02）を行っている 1日の過ごし方など、朝・夕に申し送りを行い現状の把握に努めているまた、表情や言動も見ながら1日の過ごし方など考え対応している 職員間でも心身の状況の共有をしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護職員の思い込みにならないようにフロア会議・ショートカンファで話し合っている。ご家族様・医療関係者の意見も反映させ介護計画を作成し同意・署名・捺印をいただいている。その方の状況に合わせてケアのあり方を検討している	フロア会議やショートカンファレンスで話し合い、利用者がより良く暮らすための利用者主体の介護計画を作成しています。医療関係者の意見も反映させ、職員全員で意見交換をしながら、利用者・家族の要望の変化に応じて、設定期間以外でも見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の様子は個別の記録をしており、PDCAなどヒントがある時にアンダーラインを引いている。入居者様の状態によって記録用紙を一時的に変えて「見える化」にして情報共有しケアの見直しを実践している。ご家族様に個別記録の開示をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様をご自宅にお連れし、外出ができない夫や親戚、友人に会っていただき大変感謝された。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域で行っている100歳体操などに参加した。事前にコロナ対策をしているかなども確認し、また参加するにあたってこちらでもコロナ対策を行い安全に楽しめるようにした		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医往診時には毎日のバイタル・食事飲水量・トイレ回数等記入してある表を見ていただき普段の生活・身体面など様々なことを報告している 状況・状態によっては医療機関へ早期に繋がられご家族様からは安心していただいている。主治医は夜間・早朝に関わらず迅速に対応してくださっている 医療依存度の高い入居者もホームで可能な限り適切な医療を受けている	事業所の協力医の訪問診療を月2回受けています。日々の個別の様子を医療連絡ノートに記録し、協力医に報告をしています。医療連絡ノートは職員の情報共有にも活用しています。歯科医が訪問診療で口腔ケアを行っています。内科・歯科以外の皮膚科や形成外科の通院は、基本的に家族対応で行っています。受診結果は月に1度介護報告書を作成し、家族に郵送しています。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間対応の訪問看護とクリニックを利用している。訪問看護師には関わりの中での精神的・身体的等の変った点などの気づき、薬の変更等を含め報告相談をしている。医療と介護の連携が取れる様に医療連絡ノートを記入し情報を共有している。看護と介護が連携してご家族様に安心して		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	骨折や原因不明熱で入院が必要となった時は日常の様子が見える職員がご家族と一緒に付き添いをしている。病院関係者から情報を収集し輝の主治医にも報告している。できるだけ輝での生活に戻れるように支援している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について意向を伺っている。見取りの方針に基づいてご家族に説明し、同意・署名をいただいている。状態に変化がある度にご家族の意向に変化がないか伺い、輝・ご家族・医療職のチームで情報を共有し支援している。	重度化した場合、状況の変化に応じて家族と繰り返し話し合い、利用者・家族の意向に沿った支援を行っています。職員は医師と連携を取りながら、他の利用者への影響も踏まえて対応しています。今年度も家族に寄り添った看取りケアを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	転倒事故や急変時に行わなければならない事や救急車要請時の報告の仕方・持ち物など、いざという時に対応できるように確認している。連絡先などはわかりやすいように電話のある壁に貼ってある		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年2回訓練を実施している。地元の消防署の協力ももらい避難訓練・消火訓練を行う。訓練では人手の少ない夜間帯での想定訓練の実施した。他には備蓄管理(消費期限)・保管の見直しや停電時に備え発電機も購入した。災害時には事業所内の井戸水を地域でも使用してもらうことを伝えている。マニュアルを作成し研修に向けて取り組んでいる	消防署の協力を得て、日中・夜間を想定した防災訓練を行っています。運営推進会議を通して、地域住民の参加を呼び掛けています。マニュアルを作成し、職員は、慌てず避難誘導ができるように取り組んでいます。発電機を購入し停電時に安心して支援が行えるように備えています。4月の消防訓練では緊急時の連絡方法と役割分担の見直しを行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	マニュアルを利用して常に研修している。認知症という病気の理解を深め否定をせずその方の思いに寄り添う介護ができるよう努力している。身だしなみも気をつけ、お化粧品なども継続して支援している。お手洗いの声掛けの大きさ、タイミングを配慮している	職員は利用者の誇りやプライバシー確保について理解しています。利用者の気持ちを大切に考え、声掛けの大きさにも配慮しています。日々の生活の中で、利用者が答えたくないことを無理に聞き出さないように心掛け、プライバシーを損ねない支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の思いだけではなく基本はご意向を伺うようにしている 飲み物も温かい・冷たいものが良いか伺うようにしている 重度化になってもその方の思いを大切にすため言葉はしっかりと受け止めて記録に残し共有している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合を優先しないように入居者様本位で対応するように心がけている共同生活の場でもあるので他の方とのバランスも見ながら調整し対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理髪は2か月に1回行っている また近所の美容院にもお連れをしカットを楽しんで頂けている 季節に合ったその人らしい着こなしになるよう、お化粧品(アイブロウ・口紅)やウィッグをつけるなどの支援も行っている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けや片づけは入居者様とおしゃべりをしながら一緒に行っている。季節感のある献立を提供している。残すことのない献立については見直し皆の好みに合わせている。行事の際は握り寿司を提供、生ものが苦手の方には炙りやシラスなど代替えで対応している。屋上も開放し手作りのおにぎり(皆で握って)を食べるなど「食べる楽しみ」を大切にしている	盛り付けや片付けは利用者と一緒にしています。近隣のスーパーから食材を購入し、季節感のある献立を考え、調理専門職員が手作りをしています。朝食には菓子パンやフレンチトーストなど利用者の食が進むようなメニューを工夫しています。天気の良い日に屋上で食べる「おにぎりパーティー」や、行事食の握り寿司など、食事の関心を引くよう心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量のチェック表を活用している 体重の増減・体調の変化に合わせて量や食事の内容も変えて対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後は必ず口腔ケアの声掛けをし、一人では難しい方は介助し実施している。また訪問歯科の利用もあり、助言を頂きながらケアに反映している。誤嚥性肺炎にならないよう十分に気をつけている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りトイレでの排泄をしていただくよう声掛け誘導している 排泄チェック表を確認しながら排泄リズムの把握に努めている。声掛けや誘導の際はプライバシーに配慮している 夜間も安眠妨害にならない程度にお声掛けしている	職員は排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄ができるように支援しています。個別の排泄支援により、リハビリパンツから綿パンツに変更できた利用者もいます。夜間は安眠できるようにポータブルトイレも活用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	消化の良い食事の提供、牛乳・ヨーグルトなどの提供、毎日のラジオ体操や嚥下体操、廊下歩行運動など一緒に行ったり、時には腹部のマッサージなどをし便秘解消に努めている また申し送りをし、排便コントロール(頓用薬)もしている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日は決めておらず入居者様の状態や気分に合わせて対応している また同性介助を基本とし、遅番・夜勤者対応で夜間に入浴していただくこともある 菖蒲湯や冬至の際はご近所から頂いた柚子を入れ季節を感じて頂いた	利用者の気分に合わせて入浴支援を行い、夜間の入浴希望者にも対応しています。入浴を拒む利用者にも無理強いせず、言葉かけや対応を工夫し週2回は入浴できるように支援しています。ゆず湯や菖蒲湯で季節を感じ入浴を楽しんでいます。介護度により1階小規模多機能のリフト浴を活用しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	騒音や照明など環境には十分気を配っている。就寝時間も個別で対応している。座っている時間が長ならないよう適宜短時間の休息をとっていただいている。眠れない方にはホットミルクを提供し安眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬のないようにダブルチェックをしている。スタッフは大体だが誰が何の薬を服用しているのか把握するようにしている。薬に変更がある時には状態の変化にも気をつけ、ご家族・医療職にも情報の共有を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	主婦をしていた方には家事仕事を出来るだけ一緒に行うようにしている。また歌や昔の職業・生まれ育った場所などに関連した昔話など(回想法)をして笑顔がみられている。また、屋上での家庭菜園への水やりなど気分転換して頂くようしていた		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気分転換で散歩や屋上に出て日光浴をしている。ご家族様との外出(自宅・外食)を支援している	一人ひとりの希望に沿った外出支援を心掛けています。毎日家族と一緒に近くを散歩している利用者もいます。予定していた菊鑑賞が中止になったため、代替案により、屋上に菊の鉢植えを飾り菊鑑賞を行うなど利用者が喜ぶことを考えて行動しています。天気の良い日には弁当を持って、近くの公園へ出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは施設で管理している。以前は職員と一緒に買い物に行き使うことを支援していた。お金を持っていないと不安な方にはご家族様から承諾いただき所持していただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状やお手紙を書いていただくことが出来ずにいる 入電時にはお繋ぎし、職員が会話できるように仲介しているまた自身の携帯電話の操作がわからない方には使い方をお伝えしている		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	母に日にはカーネーション、夏野菜の栽培など季節感を取り入れる工夫をしている 気分転換に屋上にお連れしている。トイレは1日3回の清掃、共有の空間は毎日清掃・消毒・換気に気をつけている コロナ感染マニュアルを作成し、1階小多機を隔離室として確保しシュミレーションを行った居室で過ごす方は少なく気の合った人同士で話をしたり、職員と関わったり自由に好きなことをしている	共有空間の清掃・換気・消毒は毎日職員が行い清潔保持に努めています。テーブルの配置は動線に配慮し、配席は利用者同士の相性に配慮し居心地良く過ごせるように工夫しています。フロアは利用者の話を傾聴する場所にもなっています。壁に飾った刺繍のタペストリーや折り紙は指先を動かすレクリエーションで利用者が作成したものです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置、気の合う方が近くにいる食席など配慮している お疲れになられ一人になる時間も必要と思われる方には居室で過ごしていただいたりもしている 居室以外で見守りができホッとできる場所が作れるといいと思っている		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や馴染みの物をお持ちいただいている中には仏壇をお持ちいただいたり、昔描いた絵画などの作品、ご家族の写真など飾っている方もいる	備え付けのベッド・カーテン・エアコンの他は使い慣れたものを自由に持ち込んでいます。趣味の絵画や写真を飾り、その人らしく暮らせる居室となっています。居室担当が利用者と一緒に整理整頓、衣類の入替をしています。友人訪問の際は気兼ねなく楽しく過ごしてもらえるように居室で過ごしてもらっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来る事・わかることを職員が一人ひとり理解し、過剰な介護にならないようにしている。また、手すりの設置、トイレは自分で行けるように看板を大きく表記している 亡くなったご主人のお水の交換は毎日職員と一緒に支援している		

事業所名	グループホーム 東林間 輝
ユニット名	3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	輝の理念である 1. あなたの笑顔が見たいから 2. 真心と安心のある介護をめざして 3. 地域に根ざす家族愛 を各ユニットに大きく掲示しています職員は業務で迷いがあつた時はいつでも理念に自分の行動に照らし合わせながら従事している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	東林間自治会、東林間商店復興会に加入している。 運営推進会議のメンバーとして自治体などの代表が参加して頂いている 商店街のゴミ拾い、先日は地元の有名な阿波踊り連盟の方に協力をもらい屋上で踊りを披露して下さった		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍になる前は毎年地域包括主催のグループホーム見学を兼ねて認知症の方に対する支援などを説明していたまた今後も機会があれば再開したい		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	対面での運営推進会議を実施しご利用者様の状況報告、コロナ含む感染予防など様々な取組みについて報告した ご入居者様でコロナ感染がなかったので今後もそのように取り組みたいと思う		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険制度に係る内容は相模原市福祉基盤課や介護保険課を窓口にして相談や申請を行っている また生活保護受給者枠を設けているので福祉事務所(南生活支援課)の担当者とも連絡・相談など連携を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会4回、一般研修を年に2回定期的に行って理解を深めている 身体拘束をしないケアを努めている 一般的な声掛けとの違いがわかりづらいこともあり、現在はスピーチロックに対する問題意識が高まっているように感じている 長時間の点滴が必要な方が動き回り針を抜かないように見守り、付き添いをご家族様にご協力いただいたこともあった		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会4回、一般研修を年に2回定期的に行って理解を深めている。報連相を大切にし虐待を疑われないようなことのないようにしている。虐待を発見したら報告義務があること、通報窓口の周知も研修の中でも行っている。自己点検シートを活用し意識向上も図っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用したいご家族様の依頼があったので主治医を含め関係者と話し合った 申請書を提出するにあたり必要な書類に記入するなど支援した		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族様に対して納得していただけるよう十分な説明を行い契約をしている改正時には家族会で説明をし欠席者には文書で知らせていた 今回、契約書の内容など再点検をして作り直すことになっている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様あての手紙・メール・電話でのやり取りをして意見交換の場を設けている コロナ禍になる前は敬老会に併せて家族会も開催し意見や要望を聞いていた 今年も再開の予定で話を進めていたが残念ながらできなかった そのため意見の反映ができるよう担当者会		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議・フロア会議・個人面談などの場において介護業務や人間関係など職員の意見・提案を聞いて現場に反映をしている。またリーダー会議やフロア会議なども含め話しやすい雰囲気を作るようにしている		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1回の個人面談を実施 状況に合わせて随時面談を行い環境整備に取り組んでいる。また希望休・有給休暇に関しては全職員が取得できる環境となるように心掛けている。給与においても頑張りを評価しパートさんを含め全員に賞与を渡している		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	常勤・非常勤職員にも外部研修を受講できるようにオンライン(ZOOM)などでも積極的に参加し人材育成に努めている。参加した職員には記録や会議の場で報告を行い知識の共有を図っている。また、初任者研修など資格取得がしやすいようキャリアアップ制度も利用し取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	相模原市のグループホーム連絡会に参加し情報交換と質の向上に努めている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	計画作成者と介護職員が事前に訪問した際、本人の意向を確認し、要望に沿った介護に努めている。経過とともに改善すべきところは改善し希望に沿ったサービスに努め本人が安心して過ごせるような生活環境を整えるようにしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談の際にご家族様の意向を確認し要望に沿った会合に努めている またできることできないこともお伝えし誤解が生じないように説明をしている そういう中で理解し信頼が深まっていると感じている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成者と介護職員リーダーが事前訪問で収穫した情報を生かし介護サービスに反映させるだけでなくインフォーマルサービス等の確認も行っている 経過とともに改善すべき点は改善している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご入居者様の過ごしてきた環境をできる限り維持できるサービスに努めている ご協力いただける部分にはお願いをし、男性・女性に関係なく持っている力を発揮していただくように関わっている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様が面会に来られた際に普段の楽しいエピソードなどをお伝えしている。またご家族様との会話でもご本人様の気持ちを代弁するなどご家族様が安心して帰られるようにしている。ご本人が好きな物も持参していただき個別で食べている。病院の受診などは可能な範囲でご協力いただくように相談している。ご家族様との過ごす時間を大切にしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会については感染症対策をきちんと行った上で実施している 面会時には体温チェックとアルコールでの消毒をしていた だく、面会時間は短時間でお申しし外出は本人や家族の意向を尊重し人混みを避けて外出等もしていただいている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	要支援1から要介護5の入居者様が各々孤立しないように席の工夫などを行っている また、見下したものの言い方をされないように職員が介入して入居者様同士の関わり合いを増やす機会を作っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後もご家族様から本人のみならず知人や親戚の事で相談・報告のご連絡がある。 親戚の方を介護保険施設にご入居に繋げ感謝された また葬儀にも参列させていただいている		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関わりの中からその方の思いや希望をくみ取るようにしている 職員・ご家族様との情報を共有し職員本位のものとならないように気をつけている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居時にはご家族様・担当ケアマネジャーからも情報をいただいている 暮らしの希望、意向を把握し、職員は情報の共有をして生活リズムが変わらないように努めている 仏壇のお水替えなど、自宅で行っていた習慣も一緒に行ってる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェック（血圧・体温・SP02）を行っている 1日の過ごし方など、朝・夕に申し送りを行い現状の把握に努めているまた、表情や言動も見ながら1日の過ごし方など考え対応している 職員間でも心身の状況の共有をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護職員の思い込みにならないようにフロア会議・ショートカンファで話し合っている。ご家族様・医療関係者の意見も反映させ介護計画を作成し同意・署名・捺印をいただいている。その方の状況に合わせてケアのあり方を検討している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の様子は個別の記録をしており、PDCAなどヒントがある時にアンダーラインを引いている。入居者様の状態によって記録用紙を一時的に変えて「見える化」にして情報共有しケアの見直しを実践している。ご家族様に個別記録の開示をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様をご自宅にお連れし、外出ができない夫や親戚、友人に会っていただき大変感謝された。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域で行っている100歳体操などに参加した。事前にコロナ対策をしているかなども確認し、また参加するにあたってこちらでもコロナ対策を行い安全に楽しめるようにした		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医往診時には毎日のバイタル・食事飲水量・トイレ回数等記入してある表を見ただき普段の生活・身体面など様々なことを報告している 状況・状態によっては医療機関へ早期に繋がれご家族様からは安心しているとお話いただいている。主治医は夜間・早朝に関わらず迅速に対応してくださっている 医療依存度の高い入居者もホームで可能な限り適切な医療を受けている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24H対応の訪問看護とクリニックを利用している。訪問看護師には関わりの中での精神的・身体的等の変った点などの気づき、薬の変更等を含め報告相談をしている。医療と介護の連携が取れる様に医療連絡ノートを記入し情報を共有している。看護と介護が連携してご家族様に安心して		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	骨折や原因不明熱で入院が必要となった時は日常の様子ที่わかる職員がご家族と一緒に付き添いをしている 病院関係者から情報を収集し輝の主治医にも報告している できるだけ輝での生活に戻れるように支援している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について意向を伺っている。見取りの方針に基づいてご家族に説明し、同意・署名をいただいている。状態に変化がある度にご家族の意向に変化がないか伺い、輝・ご家族・医療職のチームで情報を共有し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	転倒事故や急変時に行わなければならない事や救急車要請時の報告の仕方・持ち物など、いざという時に対応できるように確認している 連絡先などはわかりやすいように電話のある壁に貼ってある		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年2回訓練を実施している。地元の消防署の協力ももらい避難訓練・消火訓練を行う。訓練では人手の少ない夜間帯での想定訓練の実施した。他には備蓄管理(消費期限)・保管の見直しや停電時に備え発電機も購入した。災害時には事業所内の井戸水を地域でも使用してもらうことを伝えている。マニュアルを作成し研修に向けて取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	マニュアルを利用して常に研修している。認知症という病気の理解を深め否定をせずその方の思いに寄り添う介護ができるよう努力している。身だしなみも気をつけ、お化粧品なども継続して支援している。お手洗いの声掛けの大きさ、タイミングを配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の思いだけではなく基本はご意向を伺うようにしている 飲み物も温かい・冷たいものが良いか伺うようにしている 重度化になってもその方の思いを大切にすため言葉はしっかりと受け止めて記録に残し共有している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合を優先しないように入居者様本位で対応するように心がけている共同生活の場でもあるので他の方とのバランスも見ながら調整し対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理髪は2か月に1回行っている また近所の美容院にもお連れをしカットを楽しんで頂けている 季節に合ったその人らしい着こなしになるよう、お化粧品(アイブロウ・口紅)やウィッグをつけるなどの支援も行っている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けや片づけは入居者様とおしゃべりをしながら一緒に行っている。季節感のある献立を提供している。残すことの多い献立については見直し皆の好みに合わせている。行事の際は握り寿司を提供、生ものが苦手の方には炙りやシラスなど代替えで対応している。屋上も開放し手作りのおにぎり(皆で握って)を食べるなど「食べる楽しみ」を大切にしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量のチェック表を活用している 体重の増減・体調の変化に合わせて量や食事の内容も変えて対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後は必ず口腔ケアの声掛けをし、一人では難しい方は介助し実施している。また訪問歯科の利用もあり、助言を頂きながらケアに反映している。誤嚥性肺炎にならないよう十分に気をつけている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りトイレでの排泄をしていただくよう声掛け誘導している 排泄 チェック表を確認しながら排泄リズムの把握に努めている。声掛けや誘導の際はプライバシーに配慮している 夜間も安眠妨害にならない程度にお声掛けしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	消化の良い食事の提供、牛乳・ヨーグルトなどの提供、毎日のラジオ体操や嚥下体操、廊下歩行運動など一緒に行ったり、時には腹部のマッサージなどをして便秘解消に努めている また申し送りをし、排便コントロール(頓用薬)もしている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日は決めておらず入居者様の状態や気分に合わせて対応している また同性介助を基本とし、遅番・夜勤者対応で夜間に入浴していただくこともある 菖蒲湯や冬至の際はご近所から頂いた柚子を入れ季節を感じて頂いた		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	騒音や照明など環境には十分気を配っている。就寝時間も個別で対応している。座っている時間が長くないよう適宜短時間の休息をとっていただいている。眠れない方にはホットミルクを提供し安眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬のないようにダブルチェックをしている。スタッフは大体だが誰が何の薬を服用しているのか把握するようにしている。薬に変更がある時には状態の変化にも気をつけ、ご家族・医療職にも情報の共有を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	主婦をしていた方には家事仕事を出来るだけ一緒に行うようにしている。また歌や昔の職業・生まれ育った場所などに関連した昔話など(回想法)をして笑顔がみられている。また、屋上での家庭菜園への水やりなど気分転換して頂くようしていた		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気分転換で散歩や屋上に出て日光浴をしている。ご家族様との外出(自宅・外食)を支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは施設で管理している。以前は職員と一緒に買い物に行き使うことを支援していた。お金を持っていないと不安な方にはご家族様から承諾いただき所持していただいている		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状やお手紙を書いていただこうとすることが出来ずにいる 入電時にはお繋ぎし、職員が会話できるように仲介しているまた自身の携帯電話の操作がわからない方には使い方をお伝えしている		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	母に日にはカーネーション、夏野菜の栽培など季節感を取り入れる工夫をしている 気分転換に屋上にお連れしてい トイレは1日3回の清掃、共有の空間は毎日清掃・消毒・換気に気をつけている コロナ感染マニュアルを作成し、1階小多機を隔離室として確保しシュミレーションを行った 居室で過ごす方は少なく気の合った人同士で話をしたり、職員と関わったり自由に好きなことをしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置、気の合う方が近くにいる食席など配慮している お疲れになられ一人になる時間も必要と思われる方には居室で過ごしていただいたりもしている 居室以外で見守りができホッとできる場所が作れるといいと思っている		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や馴染みの物をお持ちいただいている中には仏壇をお持ちいただいたり、昔描いた絵画などの作品、ご家族の写真など飾っている方もいる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来る事・わかることを職員が一人ひとり理解し、過剰な介護にならないようにしている。また、手すりの設置、トイレは自分で行けるように看板を大きく表記している 亡くなったご主人のお水の交換は毎日職員と一緒に支援している		

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	第三者評価を行っている機関の名称等を重要事項説明書への記載	速やかに指摘された通りに追記する	12月の理事会にて指摘箇所と追記内容の確認後速やかに訂正する	12月5日の理事会にて訂正済み
2	2	約10年前の理念のため見直しをしても良いのでは？と提案された	今の時代、今の職員に合わせた理念の見直しを試みる方向で検討をする	約10年前に決めた理念である今の職員にアンケートを行い一緒に作っていく その結果を理事会で検討し見直しを行う	2ヶ月
3	3	運営推進会議での内容と意見一般職員へ報告、周知をする	運営推進会議開催後のフロア会議で一般職員へ報告と情報の共有が出来ている	運営推進会議での内容を管理者より各フロアで報告を行う又意見や内容について一般職員にも検討をしてもらう	12月～2ヶ月1回
4	4	社内研修についてもう少し介護技術に特化した研修も行う	介護の基本的なものや職員からニーズの多いものを定期的の実施出来ている	現在介護未経験の職員が多くなっているため(移乗やオムツ交換など)介護の基本的なものを定期的の実施する又一般職員へアンケートを行い何の研修が必要かニーズを探る 夜勤者にも共有できるようにリモート研修も検討する	3ヶ月
5	5	ミーティングなどを利用し意見交換をする	様々な会議の場で一般職員(新人職員でも)から積極的に意見を発言できるような環境を整える	フロア会議では居室担当者から受け持ちご利用者様の状況報告をしてもらう ご利用者様の話し合いでは居室担当者が中心となってリーダーシップを発揮する場面を作る	1ヶ月